**資料１**

大阪府がん対策推進委員会

各部会の活動状況について

○　がん検診部会　　　　　　・・・・・・・・　２

○　がん診療連携検討部会　　・・・・・・・・　５

○　がん登録等部会　　　　　・・・・・・・・　７

○　小児・AYA世代のがん対策部会・・・・・９

○　肝炎肝がん対策部会　　　・・・・・・・・１１

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **がん検診部会**  **【主な審議・検討内容】**   * **令和３年３月３日～１５日（書面開催）**   **１．市町村がん検診の精度管理について**  **（１）大腸がん検診の要精検率について～『大阪府におけるがん検診　平成３０年度』から～**  ≪概　　要≫  平成30年度の大阪府内市町村のがん検診の実施状況を取りまとめ、冊子『大阪府におけ  るがん検診平成30年度版』を発行。  冊子から課題があると認識した「大腸がんの要精検率について」を取り上げ、現状と問題点の把握、共有を図った。  対応策として、部会長名で、部会の意見を踏まえ、適切な要精検者の抽出のため、各市町村において次の項目に取り組むよう市町村あて文書を発出予定。  **＜意見＞**  **〇　許容値を満たしていなかった市町村について、その多くが集団検診ではなく個別検診での要精検率が高いことから、医療機関毎の要精検率を算出し、現状把握を行うこと。**  **〇　要精検率が著しく高い医療機関については、必要に応じて医療機関へのヒアリングや現地調査などにより、測定用キットなど実施方法の点検を行うこと。特に府における過去の調査によると、要精検率の高い医療機関が採用している測定用キットやカットオフ値の適正が疑われるケースが見受けられるため、その点留意していただきたい。**  ≪主な意見≫  ・大腸がん検診にて要精査になると大腸ファイバーという侵襲の高い検査が必要となるた  め、陽性率の高い検診は容認されないと考える。  　　　　・個別検診も地域検診も便潜血検査キットは同一のものを使用すべき。また、検査法は便  潜血検査免疫法のみでトランスフェリンなど他の方法は実施しないことを明記する。またメーカ推奨のカットオフ値を使用するのではなく、目標となる要精検率を達成するためのカットオフ値の設定が必要。がん検診の法的なバックグラウンドも説明する必要がある。  ・ある市の要精検率の異常に高い医療機関は、トランスフェリン法を併用していた。個別に医療機関に働きかけることで改善したので、ぜひ市町村において取り組んでほしい。  ≪審議結果≫  承　認  **（２）精密検査受診率の向上に関する取り組みについての調査結果報告**  ≪概　　要≫  精検受診率が許容値を下回る市町村あて改善を促す通知文を発出し、市町村から改善に向  けた取り組みの報告を求め、それを取りまとめた。  新型コロナウイルス感染症の影響により取り組みが進まなかった市が中にはあるものの、通知をうけて何らかの取り組みは行われている模様。  ≪主な意見≫  ・精検受診率がH29→30で低下しているところもあるので、他部位ごとに違う取り組みが必要ではないか。  ・個別検診も要精検者については市町村が名簿を作成し、集団検診と同様に受診勧奨すべきだろう。個別検診に関して市町村はuntouchableのような印象をうけるが、積極的に関与するべきだ。  ・毎年、各医療機関毎の精検受診率をだし、市の平均と比較したものを通知する取り組みを行っている市もある。通知文をだすことで効果が見込めると思われる。  ≪審議結果≫  承　認  **２．令和２年度がん検診受診率向上事業について**  **（１）令和２年度の取り組み報告**  ≪概　　要≫  国の「職域におけるがん検診に関するマニュアル」制定を踏まえ、令和２年度から複数年かけて「職域におけるがん検診の実態把握」を実施。令和２年度においては、がん検診を受託する検診機関を対象に調査を実施するとともに、あわせて国マニュアルの周知を行った。その結果報告を行ったもの。  ≪主な意見≫  ・職域検診の実態調査は困難を伴うと思う。回答率を上げるようにさらなる取り組みをお願いしたい。  ・職域検診ではドックの比重が今後増加すると思われるので、精度管理に関し重点的な取り組みが必要だと思う。プロセス指標などを出していない医療機関もあるようだが、市町村職員が受診しているようなドックであれば職場の健康管理に使用するからという理由で指標を計算させるのも一法だろう。乳がん検診、胃がん検診など診断や撮影に有資格者が必要であることを明確に検診機関に伝え、該当する職員の名簿の提出を求めるのもいいのではないか。市町村と職域と両方を実施している検診機関については、対応を変えている可能性はないか？たとえば、市町村向けにはプロセス指標は算出するが、職域は算出しないというように。また、判断基準もダブルスタンダードになっていないか精査が必要だと思う。  ≪審議結果≫  承　認  **（２）令和３年度の取り組み予定**  ≪概　　要≫  令和３年度は職域のがん検診を委託する企業及び保険者に対して実態把握調査を実施、  また国マニュアルの周知等によるがん検診の精度管理及び受診率の向上を図る予定。  ≪主な意見≫  ・事業主に対する調査では、産業医の関与状況についても調査すべきと考える。  ・2020年度厚労省委託事業「職域におけるがん検診の実態調査」報告書(2021.3公表予定）で、事業主、保険者、検診機関について、アンケート・ヒアリング調査が行われているので、参照すべき。  ≪審議結果≫  承　認  **３．精度管理センター事業について**  ≪概　　要≫  府内市町村のがん検診精度管理の向上や受診率向上の取組みについて、現状や課題を  把握することを目的として、平成30年度からの３年間で全市町村を訪問することとしている。今年度訪問した１３市町のうち、特徴的な市町の取り組み等について報告。  **４．第３期大阪府がん対策推進計画について**  **（１）進捗管理について**  ≪審議結果≫  承　認  **（２）中間点検・見直しについて**  ≪主な意見≫  ・2016年罹患以降は、大阪府がん登録から全国がん登録に移行しているので、府がん計画における全国がん登録の利用方法について、新たな確認が必要。  ≪審議結果≫  承　認  **【委員名簿】**※は部会長（50音順、敬称略）   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 氏　名 | 書面  開催 | 職　　名 | | 加納　康至 | ○ | 一般社団法人　大阪府医師会　副会長 | | 上浦　祥司 | ○ | 地方独立行政法人　大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 婦人科主任部長 | | 芝　英一 | ○ | 大阪ブレストクリニック　院長 | | ※ 祖父江 友孝 | ○ | 国立大学法人 大阪大学 大学院医学系研究科 社会医学講座環境医学 教授 | | 西田　　博 | ○ | 医療法人 城見会  アムスニューオータニクリニック 内視鏡センター長 | | 本郷　仁志 | ○ | 医療法人 祥佑会　藤田胃腸科病院　理事長・院長 |   あ |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **がん診療連携検討部会**  **【主な審議・検討内容】**   * **第１回：令和２年１０月２１日～１０月２９日（書面開催）**   **１．国指定がん診療連携拠点病院の推薦について**  ≪概　　要≫  和泉市立総合医療センターの新規指定推薦について審議。  ≪主な意見≫   * 相談支援体制および当事者との協働に関して国の指定要件を満たしていると考えられる。公式WEBによると医師が相談対応していることが記されており、他施設にない特徴を持つ機関であると考えられる。 * 緩和ケア部門については、最新のがん治療と緩和ケアの統合という最新の世界的ながん医療の潮流をとらえ、緩和ケアセンターを通じての緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、地域との連携が資料及び診療実績から読みとれる。 * 和泉市立総合医療センターは、平成30年に新築移転し、がん診療を始めとして総合医療センターの診療体制の整備を図り、患者数も一気に著増している。特に呼吸器がんや婦人科がんの診療体制は充実しており、その実績もこの数年で素晴らしいものとなっている。加えて、緩和ケアやがん相談支援の領域においても市立岸和田市民病院と比べ遜色ない結果を示している。 * GISTなどの希少がんでは、専門医が少数であることから、がん診療拠点病院の中でも   相互連携しながら患者により多くの情報が提供できるようにしていただきたい。  ≪審議結果≫  和泉市立総合医療センターの新規指定推薦について、承認。   * **第２回：令和３年３月４日～３月１５日（書面開催）**   **１．府指定がん診療拠点病院の指定について**  （１）府指定がん拠点病院の指定更新（経過措置）について  ≪概　　要≫  経過措置項目に該当し指定期間が１年間である25病院の指定更新について審議。  ≪審議結果≫  経過措置項目に該当した項目の状況を確認し、25病院全てについて指定更新を行うことで承認。  （２）府指定がん拠点病院（肺がん）の指定更新（経過措置）について  ≪概　　要≫  経過措置項目に該当し指定期間が１年間である３病院の指定更新について審議。  ≪審議結果≫  経過措置項目に該当した項目の状況を確認し、３病院全てについて指定更新を行うことで承認。  **２．第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について**  ≪主な意見≫  ・緩緩和ケア関係の個別目標、モニタリング指標は向上しており引き続き維持、向上し  府民の付託に応えられるように期待したい。  　　　　・今後は、コロナ禍の影響について注視いただきたい。  ≪審議結果≫  承　　認  **２．第３期大阪府がん対策推進計画の中間点検・見直しの方向性について**  ≪主な意見≫  ・コロナ禍によるがん診療への影響を検証し、その対策を講じることが必要。  ≪審議結果≫  承　　認  **【委員名簿】**※は部会長（50音順、敬称略）   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 氏　名 | 書面開催 | | 職　　名 | | 第１回 | 第２回 | | 飯島　正平 | ○ | ○ | 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター　緩和ケアセンター長 | | 池山　晴人 | ○ | ○ | 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター 相談支援センター副センター長 | | 佐々木　洋 | ○ | ○ | 一般社団法人 大阪府病院協会 会長 | | 高澤　洋子 | ○ | ○ | 一般社団法人 大阪府訪問看護ステーション協会  副会長 | | 武田 　勝 | ○ | ○ | 関西GIST患者と家族の会　代表 | | 田村　信司 | ○ | ○ | 大阪府公立病院協議会　副会長 | | 土岐　祐一郎 | ○ | ○ | 国立大学法人 大阪大学医学部附属病院 病院長 | | 所　 昭宏 | ○ | ○ | 独立行政法人国立病院機構 近畿中央呼吸器センター  心療内科科長 | | 中尾　正俊 | ○ | ○ | 一般社団法人 大阪府医師会　副会長 | | 馬場　武彦 | ○ | ○ | 一般社団法人　大阪府私立病院協会　副会長 | | 東山　聖彦 | ○ | ○ | 地方独立行政法人　大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター　副院長 | | ※松浦　成昭 | ○ | ○ | 地方独立行政法人　大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター　総長 |   あ |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **がん登録等部会**  **【主な審議・検討内容】**   * **第１回：令和２年４月２０日～４月２７日（書面開催）**   **１．公表前審査に係る窓口組織一任の範囲拡大について**  ≪概　　要≫  　　　　　　公表前審査について、『これまで公表前審査いただいたものと同様のもの』は、窓口組織に判断を一任する。  ≪審議結果≫  承　　認  **２．部会の開催について（新型コロナウイルス感染症対応）**  ≪概　　要≫  当面の間、審査を３ヶ月に１度する。ただし、急ぎの案件が出た際には適宜対応する。  ≪主な意見≫  ・「当面の間＝感染症対策で多忙な間」ということで承知。  ・新型コロナウイルス感染予防対策として、必要な対応と考える。  ≪審議結果≫  　承　　認   * **第２回：令和２年７月２７日～８月２１日（書面開催）**   **１．がん登録情報の利用申出に関する審議について**  ≪概　　要≫  ６月に受け付けた申出について審議   * + 新規利用申出（研究者）・・・・・・・・１件   ≪審議結果≫  利用申出に対し、情報提供することは妥当   * **第３回：令和２年１１月２日～１１月３０日（書面開催）**   **１．がん登録情報の利用申出に関する審議について**  ≪概　　要≫  ７月から１０月に受け付けた申出について審議   * + 新規利用申出   + 新規利用申出（研究者）・・・・・・・・ ２件   + 新規利用申出（行政）・・・・・・・・・ １件   ≪審議結果≫  利用申出に対し、情報提供することは妥当   * **第４回：令和２年３月４日～３月１５日（書面開催）**   **１．がん登録情報の利用申出に関する審議について**  ≪概　　要≫  ・今年度の当部会の審議内容を報告。  ・大阪府がん登録における情報の提供等に関する事務処理要領を一部改正。事務処理要領更新前の定義項目で申請または承認されたもののうち、事務処理要領更新後に提供するデータは、申請者に確認のうえ、事務処理要領更新後の定義項目に読み替えてデータを提供した。  **２．第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について**  ≪主な意見≫  がん登録情報の活用や拠点病院の実績公表などに期待する。  ≪審議結果≫  承　　認  **３．第３期大阪府がん対策推進計画の中間点検・見直しの方向性について**  ≪審議結果≫  承　　認  **【委員名簿】**※は部会長（50音順、敬称略）   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 氏　名 | 書面開催 | | 職　　名 | | 第1,3,4回 | 第2回 | | 今村　博司 | 〇 | 〇 | 市立豊中病院 がん診療統括センター長 | | 上田　健介 | 〇 | 〇 | 学校法人 近畿大学大学院 法務研究科　教授 | | 記虎 加代子 | 〇 | × | 旭区がん患者と家族支援の会　理事 | | 中尾　正俊 | 〇 | 〇 | 一般社団法人 大阪府医師会　副会長 | | 星田　四朗 | 〇 | 〇 | 大阪府公立病院協会 会長 兼 八尾市立病院 総長 | | 松村　泰志 | 〇 | 〇 | 国立大学法人 大阪大学大学院  医学系研究科医学専攻　医療情報学　教授 | | ※宮代　　勲 | 〇 | 〇 | 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター　がん対策センター所長 |   ああ |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **小児・AYA世代のがん対策部会**  **【主な審議・検討内容】**   * **令和３年３月４日～令和３年３月１５日（書面開催）**   **１．第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について**  （１）進捗管理について  ≪主な意見≫  　〇就労支援  ・労働関係機関と連携した出張相談の拡大を検討していただきたい。せめて１医療圏に１施設実施や他施設患者の受け入れがあればなお良い。  〇学習支援  ・従来より、教育や患者同士のコミュニケーションのため遠隔コミュニケーション環境整備事業を進めているが、新型コロナの影響で遠隔事業などに対する社会の見方も「特殊なもの」ではなくなりつつある。ハード・ソフト面での一層の推進を図るとともに、教育制度においても更に柔軟な対応をお願いしたい。  ・新型コロナ禍においても学習支援が安定して行われるよう留意する必要がある。  ≪審議結果≫  承　　認  （２）中間点検・見直しについて  ≪主な意見≫  　・妊よう性温存治療費助成については、他府県と比べて進んでいるとは言い難いので、令和３年度は強力に推進願う。  ≪審議結果≫  承　　認  **２．大阪府小児・ＡＹＡ世代のがん患者支援事業報告**  ≪主な意見≫  〇本事業の認知度を上げるための努力が必要  〇遠隔コミュニケーション環境整備事業  ・大阪府として（私立・公立、義務教育に関わらず）対応できるシステムの構築の検討、教育委員会などと議論できる場があれば良い。  ・実績や、単位取得されたか、患者の満足度についても確認できると良い。  〇その他  ・ウィッグ助成（退院後の復学・復職を目指す為）、AYA世代における末期がん在宅療養支援助成（介護保険非該当の為）制度を検討していただきたい。  **３．大阪府小児がん患者家族ニーズ調査事業報告**  ≪主な意見≫  　・満足度調査の各施設へのフィードバックを行い、各施設にて満足度の向上のための努力を継続して行うこと、そして経年的にそれを評価すること。  ・治療と学業の両立や本人らしい生活が困難と感じる結果は、新型コロナ禍の影響か。  **【委員名簿】**※は部会長（50音順、敬称略）   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 氏　名 | 書面  開催 | 職　　名 | | 井上　雅美 | 〇 | 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  大阪母子医療センター 血液・腫瘍科 主任部長 | | 井福　亜希 | 〇 | 国立大学法人 大阪大学医学部附属病院  オンコロジーセンター 医療ソーシャルワーカー | | 上田　崇志 | 〇 | 公益財団法人 がんの子どもを守る会  事務次長兼大阪事務所長 | | 多田羅　竜平 | 〇 | 地方独立行政法人 大阪市民病院機構  大阪市立総合医療センター　緩和医療科部長 | | 中田　佳世 | 〇 | 地方独立行政法人 大阪府立病院機構  大阪国際がんセンター がん対策センター  政策情報部 リーダー | | ※原　　純一 | 〇 | 地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター副院長 | | 森口　久子 | 〇 | 一般社団法人 大阪府医師会理事 |   あ |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **肝炎肝がん対策部会**  **【主な審議・検討内容】**   * **令和３年３月３日～令和３年３月１５日（書面開催）**   **１．大阪府肝炎専門医療機関及び肝炎協力医療機関の指定等について**  ≪概　　要≫  新たに肝炎専門医療機関の申請があった７施設、同協力医療機関に申請があった４施設等について審議。  ≪審議結果≫  承　　認  **２．肝炎専門医療機関の現況報告について**  ≪概　　要≫  令和元年度における肝炎専門医療機関の診療実績等の結果を報告。  **３．肝炎医療コーディネーターについて**  ≪概　　要≫  肝疾患診療連携拠点病院や専門医療機関等に加え、健康サポート薬局や患者団体にコーディネーターの配置対象を拡大。Web研修により、1,214人（372機関）のコーディネーターを養成。（累計1,569人）制度見える化のため、新たに認定バッジ等を作成。  ≪主な意見≫  今後のコーディネーター人材の活用が課題。配置機関へのポスター等の掲示が必要。  **４．肝炎ウイルス検査の重点勧奨について**  ≪概　　要≫  ウイルス検査の重点勧奨対象である60～70歳代を中心に、健康サポート薬局に配置した肝炎医療コーディネーターが、薬局窓口で啓発物品を手渡し、受診勧奨を実施。  ≪主な意見≫  ・市町村の肝炎ウイルス検査の実施数にバラツキ。特定健診等にあわせて受診勧奨を。  ・肝炎協力医療機関での通院患者の肝炎ウイルス検査実施率を把握してはどうか。  ・健康サポート薬局を活用した取組みの成果に期待。  **５．肝炎フォローアップ事業について**  （１）肝炎等克服政策研究事業を利用した大阪府における肝炎フォローアップ事業の報告  ≪概　　要≫  令和元年度における精検未受診者への受診勧奨及び治療状況調査の結果を報告。  ≪主な意見≫  計画目標の精密検査受診率８０％に向けて、精密検査受診のチラシ等で工夫を。  （２）肝炎ウイルス検診の精度管理に関する報告  ≪概　　要≫  府及び市町村で実施した肝炎ウイルス検査の受検者、判定結果、精検結果等を報告。  **６．肝炎・肝がん対策事業について**  （１）肝炎定期検査費用助成事業（令和３年４月開始予定）の報告。  （２）肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業（令和３年４月見直し予定）の報告。    **７．第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について**  ≪審議結果≫  承　　認  **８．第３期大阪府がん対策推進計画の中間点検・見直しについて**  ≪審議結果≫  承　　認  **９．その他**   * すべてのB型・C型肝炎患者に制度が周知されるよう、チラシ配布に取り組んでほしい。 * 肝がん・重度肝硬変で入院・通院治療をしているすべての医療機関に制度活用の徹底を。   高額な薬代を薬局で支払うことになるため、府薬剤師会にも周知徹底をお願いしたい。   * 定期検査費用助成の請求書類（診断書等）の略式化・省略化を。   **【委員名簿】**※は部会長（50音順、敬称略）   |  |  |  | | --- | --- | --- | | 氏　名 | 書面  開催 | 職　　名 | | 今井　康陽 | ○ | 一般社団法人 大阪府病院協会 副会長 | | 片山　和宏 | ○ | 市立貝塚病院　総長 | | 河田　則文 | ○ | 公立大学法人 大阪 大阪市立大学 大学院医学研究科  肝胆膵病態内科学 教授 | | 阪上　伸二 | ○ | 「大阪肝臓友の会」運営委員 | | 關　　壽人 | ○ | 関西医科大学 総合医療センター 副病院長 | | ※ 竹原　徹郎 | ○ | 国立大学法人 大阪大学 大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 | | 中尾　正俊 | ○ | 一般社団法人 大阪府医師会 副会長 | | 馬場　武彦 | ○ | 一般社団法人 大阪府私立病院協会 副会長 | |